

## 「昇格後初ハットトリックは西川優大！」 岐阜4-0岡山【第1節】

ゴールデンウィークを締めくくりにふさわしい快勝。岡山の選手に連戦の疲れが見えたのは明らかだがとにかく岐阜の選手が積極的に攻め込んだからこそその結果だと思う。多少のミスには目をつむり、この勢いを保って突き進んでほしい。(ST57)

岡山戦では印象的な事が。それは岡山サポが、かつてFC岐阜に所属していた木村允彦(2007年所属)のダンマクを持参して、しかもG裏ど真ん中に2枚も掲げていたこと。これは、岡山サポが岐阜に対する仁義を切ってくれたということなのだろうか?あるいはこの場に来ることができない木村の魂をダンマクに託して持参したということなのだろうか?真意のほどは定かではないが、非常に興味深いものがあった。

聞くとところによれば、岡山サポはHomeの桃太郎スタジアムで過去に在籍していた選手らのダンマクも掲示しているとのこと。どんな光景なのだろうか?現地を訪れて確かめてみたいところ。現在はファジアーノ岡山・ネクス(岡山県1部リーグ)に登録替えになっている木村。いつかまたJの舞台上で彼のプレーが見られることを楽しみにしている。(リベロ)

スタジアムに着いたのは後半20分程でしたが、入場する前に直感しました、今日は勝っていると。なぜならば、スタジアムから聞こえてくる声援が普段より喜びに聞こえたからです。久々に自然にサッカーを楽しむ場所がある喜びを感じた日でした。勝つことは当然重要ですが、まずホームでいいプレーを見せること、その過程でゴールが見れば最高ですね。(ち～な)

勝利からは実に9試合、1ヶ月以上も遠ざかっているチーム。惜しい試合はするものの、ゴールを決めきれない・勝てない試合が続く中で迎えた岡山戦。かつては地域決勝で「JFL昇格」をかけて対戦した相手と、「Jの先輩」として2年ぶりの再戦だ。

試合が始まると、序盤から主導権を握る。選手たちも勝利・ゴールに飢えているのだろう、積極的に攻撃を仕掛け、シュートを撃つ。そして前半24分、キャプテン菅の見事なミドルが実に美しい軌跡を描いてゴールネットに突き刺さる。腕を突き上げて吼える和範、応えるサポーター。39分には西川のJ初ゴールも決まり、2点差で前半終了。久しぶりの勝利の予感に笑顔の人たちも見られたが、逆に僕は何か普段よりも冷静だった。格言...なのかな?「2点差は危険な差」。3点目を決めて、相手の戦う心を折らなければ。そんな気持ちで後半に臨んだ。実際、後半に入って岡山の選手が警告2枚で退場になった後、急に動きが良くなった相手に攻め込まれる危険な場面も。まさか、危惧が現実のものになってしまうのか...と不安になり出した後半34分、片桐のスルーパスに反応した西川が2点目のゴール!この直後、ガックリと膝をついた相手DFの姿を見て、やっと勝利の手応えを感じた。...そして、急に「その瞬間」はやってきた。「スタジアムが一体となる瞬間」が。スタジアム全体が拍手と歓声に包まれ、勝利を信じてチームを後押しする高揚感。絶対に、スタジアムにいなければ味わえない感覚。そんな感覚に包まれながら、西川が自身初となるハットトリックを達成。そして、試合終了の笛。4回も相手のゴールネットを揺らし、しかも完封した試合なんて、何年ぶりかな(苦笑)。みんなで勝利の万歳四唱。ハイタッチと握手とハグの嵐。帰りには、すれ違う人に誰彼構わず「お疲れ様でした」「ありがとうございます」と声をかける。みんなニコニコして応えてくれる。やはり、勝利はいい。特にホームでの勝利は。(ささたく)

コール・リーダーが切った締めくくりのコール。ようやく我に返って周りを見回すと、ほとんどの人がぐちゃぐちゃの笑顔。そうでない人の顔は涙で濡れてた。誰もが、イイ感じにコワれてた。ホームで勝つってこういうことなんだな。ホント、シワアセになれるんだな。そう確信できた2009年5月9日。

キックオフのホイッスルを待ちかねたかのように、積極果敢に攻勢をかけるボクらの選手。何度も好機を演出しながらも、はね返されつづけた岡山の壁をブチ抜いたのは右利きのキャプテン・和範の左足ミドル!今季初、通算4得点目のゴールはいずれも左。昨季終盤の熊本・水前寺を再現したような豪快ミドルをファンファーレに、岐阜のゴールラッシュは始まった。とはいえ、決めたのは優大だけだったけれど、淳至、和正、川島、そして正吾も、何度となく決定機を作り出して見せてくれた。中でも正吾はサイドからのアタックだけではなく、真ん中へ移動したその位置から相手ボールを奪取、そしてドリブルでの中央突破と、実に気の利いた攻撃を演出していたように思う。シュートをポストに当てるのは、いつもながらのご愛敬といったところか(苦笑)でも、「ゴールが苦手」と揶揄されるのも、ゴールを狙える位置に彼がいることの証とも言える。相手にとって、危険な場所に現れる。正吾が、その真骨頂を如何なく発揮できた時、ウチが得点力不足などと言われることはなくなるだろう。そんな妄想も浮かんでしまうくらいに楽しい時間。

それでも、楽なワンスайд・ゲームだったわけではない。先制した後のセット・プレーを含め、もし、一点でも岡山が決めていたら、こんな展開にはならなかったかもしれない。相手DFの不注意な警告退場がかなり優位に働いたことも否めない。枠内を捉えたシュートも何本もあった。だが、ウチのゴールには恭平がいた。菊地も中盤の底に君臨し、時に最終ラインに身を投じて、訪れたピンチをはね返してくれた。そうして、勝ち取った4-0という結果は、彼らにとって当然の報酬といえよう。

それから、どうしても語りたいたい優大の。「初ゴールを決めたと思うや、またたく間にハットトリックを見せてくれたのだから言うことはない。その体格に似合わぬ、裏へ抜け出すスピードをようやく発揮してくれた。そのうえ、案外足元も柔らかいようだし、ポストとしての楽しみも垣間見える。洗一や俊慶ともども、高さや速さを兼ね備えるFWとして、花が開いたあかつきには、ウチの得点力は相手にとって相当の脅威になるに違いない。これから、彼らのチャントが、何回も何十回も歌えるようにするために、絶え間なく彼らを支えていこう。そして、もっともっとたくさんの人が、ここ長良川競技場でシアワセになれるよう、これからもクラブを支えていこう。改めて、そう思わせてくれた今日の選手たちに、心から感謝を贈りたい。札幌でも、共に闘おう!(ぐん、)



絵: ひらっち

### today's guest ロアッソ熊本

2008 J2 第12位

対戦成績

第1節 08/05/11 熊本0-2岐阜

第1節 08/06/11 岐阜0-0熊本

第4節 08/10/26 熊本1-1岐阜

### 2009J2

順位表 第1節終了

勝点、得失点差、得点、岐阜戦の戦績  
(岐阜から見て)

1 大阪 38p +15 32 A

2 湘南 36p +16 27 A

3 仙台 32p +15 26 H

4 甲府 31p + 7 21 H

5 札幌 26p + 4 24 A

6 水戸 25p - 1 26 A

7 徳島 24p + 5 21 A

8 東京V 24p + 1 17 H

9 富山 23p + 4 16 A

10 愛媛 21p + 2 19 A

11 鳥栖 20p - 4 16 H

12 福岡 17p - 5 19 H

13 草津 17p - 7 22 H

14 熊本 16p - 7 16

15 栃木 14p - 9 12 A

16 岐阜 13p -12 13

17 岡山 12p -14 12 H

18 横浜C 7p -12 11 A

### 次回 HomeGame

第19節

水戸ホーリーホック戦

6/3(水) 19:00

@岐阜メモリアル

センター長良川競技場

### 投稿募集!

gdaidohr@hotmail.co.jp

お待ちしております!

FC岐阜大好き通信(岐大通)

5/24号

編集発行:『岐大通』製作委員会

今号の製作担当: ささたく &amp; 吉田鑄造

### おしらせ

2009年版『岐大通』は、試合数増加のために全ホーム戦での発行を断念し、3~4節ごとに発行の体制で臨んでおります。

次回発行:6/14相南戦

よろしく願い申し上げます。

# 北の大地に乗り込むも完敗 札幌3-0岐阜【第1節】

札幌戦に限った事ではないのですが、昨年からの勝ち点を取った後は、必ずと言っていい程負けていますね。負けなかった安心感から気がゆるむのか、今回のような部分的に散漫さが見える試合が目立ちます。リーグ戦経験の有無しに関係なく、常に危機感とプロ意識を持って戦わないとまた大量失点で完敗、という試合になると思います。

(ブラウ)

遠く望む山々の頂には、未だ残る冠雪。足元に目をやれば、今を盛りと咲き誇るタンポポ。5月半ばにしての、このコントラストと少し肌寒い風。「あ～、北海道にきたんだなあ・・・」とシミジミ感じる。

前回訪れたのは2年前。しかし、その時は厚別での天皇杯だったが、この日の会場は札幌ドーム。長居に続き、2つめのW杯会場だ。どうやら、次節以降のホームは厚別になるらしい。今季、たった一度の札幌遠征をドームで行う。いろんなスタジアムを訪れたいと思う者にとって、この上ない設定。ラッキーの一言に尽きる。それにしても、スタジアムの外にまで、小型とはいえオーロラビジョンが設置されているとは...。地下鉄の駅から近いし、空港からのバスも運行されているという素晴らしい環境。

この試合の入場者数は一万人を超えた。帰りの地下鉄で仲間に話し掛けてきたのは、年配のご婦人二人組。ごく当たり前、こちらの応援とかについての話が出る。サッカーの観戦に慣れている雰囲気を感じられて、とてもうらやましく思えた。

ゲン直しに出かけたススキノでは、居酒屋からジンギスカン、味噌ラーメンに海鮮丼と胃袋的には完勝(?)したし、翌日の空港で某牧場の生キャラメルとやらもお土産にできて、観光としては満足な内容だったのだけど...。肝心の試合がね(苦笑)。

この試合が始まるまで、大阪が一番強いと思っていたけど、札幌が一番かな?と考えが変わった。うまく言えないけど、大阪は実力も余裕もあったけど、スキもあった。札幌は実力も余裕もあったけど、スキがなかった。そんな感じ。さらに言えば

「プレスするのは、こうやるんだよ、こう交わすんだよ」と手本を見せられた感じすらある。こちらが数人で囲もうとしても、その前にワンタッチ、ツータッチでつながれたり、囲まれてもボールを失うことなく囲みの間を縫って、あるいは、こちらが人数をかけた分空いた逆サイドに、正確なパスを通してきて、しかも、そのサイドチェンジは、ラインを割る手前で落ちてきて、受け手がたやすくコントロールできるような柔らかいパス。

そういうパスを送る余裕が、札幌にはあったということ。特に前半は、これだけの力のあるチームが、昨年は記録的な速さで降格が決まってしまう。J1のレベルはそんなに高いのか、と思わざるを得ない。

反対に、ウチは囲まれる前にパスが出すことができず(出せれば決定的な場面が作れるのに)、囲まれては苦し紛れに出すパスをことごとく奪われてしまう。相手のシュートミスや、守備陣のがんばりがなければ点差はもっと開いただろう。

ただ、がんばった守備陣の中で、先制された場面の恭平についてはいただけない。飛び出したGKの伸ばした手より先に相手の頭がボールに触るなんてことは、判断ミスとしかいいようがない。次からは、戦線離脱した川島の方も、DFリーダーとして守備を支えていってほしい。

攻撃陣はDFの再構築をカバーしてほしい。札幌戦の前半は相手に何もさせてもらえなかった優大も、交代出場の洗一も、後半途中からはゴール前でフィニッシュへの形を作れるようになってきた。残念ながら、相手GKを慌てさせるシュートまでには至らなかったが、こうやって少しづつでも厳しいDFに慣れていけば、今後の展望に期待が持てる。水曜日の横浜戦、日曜日の熊本戦と厳しい日程が続くけれども、臆することなく力の限り勝負してほしい。ボクらも、力の限り応援するから。

(ぐん、)

北の大地札幌ドームでのコンサドーレ戦。結果は0-3 シュート数もコンサドーレ18に対し6で、たった1/3でまさに完敗。ただ、それよりも痛かったのが、今の岐阜の中心選手の二人、川島、菊池のセンターラインを怪我で失ったこと。特に川島は鎖骨骨折で3ヶ月。これで、DFラインの入れ替えは必死で、せっかく出来上がりつつあった連携が失われてしまう。ただ、ルーキーたちはこれをチャンスと捕らえて奮起を期待したい。試合内容は厳しかったが、今回の札幌ドームでは嬉しい事も。試合翌日の北海道新聞にも掲載されていたのだが、帯広岐阜県人会の会員約20名の方々が、バスで4時間もかけてわざわざ応援に駆けつけていただいた。

『心の故郷・祖先の地「FC岐阜」をでらすごく応援するぞ!』

こんな横断幕をもつての応援。これを見たときにいろいろ思うところが。

県人会の方々は多くの苦勞をされたであろう人生の先輩ばかり。そんな故郷の先輩達が「FC岐阜」を通して、故郷「岐阜県」を見ているということ。おそらく、生まれ育った故郷「岐阜県」での事なども思い出されたりもしただろう。また、新聞には県人会の副会長のコメントとして「負けは残念だが、郷土のチームを応援できて元氣をもらえました。」とあった。

たかだか出来て数年の「FC岐阜」というサッカーチームが、サッカーに縁の無い人たちに望郷の念を抱かせ、元氣を与えている。そして、このような故郷の先輩達と引き合わせてくれる。同様のことが昨年もあり、アウェー広島戦2試合に広島県人会の方々が応援にいらした。そのときの県人会の方との話で「故郷、岐阜の～」といった時、県人会の方が目頭を押さえたことがあった。

もう、「FC岐阜」というチームがただのスポーツクラブではなくなりつつある。

そのことを改めて感じてすごく嬉しかった。また、「FC岐阜」という存在は県外の人にとって、「岐阜県」を近くに感じさせるもののひとつになりつつあり、しかも、その力は年齢関係なく大きなものになりつつあるということがわかった。

もし、岐阜県内にFC岐阜をなくしてしまえなんていう人がいるなら、ぜひ、県人会の人たちの望郷の念を感じていただきたい。そんなことは簡単にいえないはずだ。だからこそ、選手達には最大限のプレーをしてほしいし、私も最大限の応援をしたい。そして、地元岐阜県内から不況で苦しいけれども、多くの支援をお願いしたい。

「FC岐阜」は故郷の象徴だから。

(緑の小太鼓)

## 編集部より 第1節・西川優大のハットトリック

第1節・ファジアーノ岡山戦でFW西川優大がハットトリックを達成。FC岐阜が「リーグに加盟して」になって初の快挙です。

FC岐阜で前回達成されたハットトリックは、2007年6月23日のJFL前期第1節・ガイナレ鳥取戦(長良川)での片桐淳至(3分、7分、78分)。その前は、2006年11月26日の地域決勝1次ラウンド・Mi-UVわこ Kusatsu戦(高知・春野球技場)での池元友樹です。

ゴールシーンはサッカーの華。もっともっと、FC岐阜のゴールシーンが観たい。みんなで応援しよう!

(編集部・吉田鑄造)

# ALADDIN

何も無い店だけ・・・  
心の花が咲く・・・  
何も無い店だけ・・・  
心癒される・・・  
忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)

「いらっしやいませ」より  
「おかえりなさい」が似合う  
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は  
JR岐阜・名鉄岐阜駅から  
徒歩3分。

休:日曜日(今日はお休みです)



## 「勝てた試合」をドローで終える 横浜FC1-岐阜【第16節】

昼間の日差し、暑さはすでに真夏のそれで、今夜はいったいどうなっちゃうんだろう？と心配もしたアウェイ横浜戦。ところが、岐阜にとって初めてのニッパツ三ツ沢球技場でのナイトゲームは、昼間の暑さがウソのような、風がないにもかかわらずヒンヤリとした空気は、年中この気候だったら過ごしやすいのに、と思わせる心地よさ。DFリーダーとなっていた川島の長期離脱、菊池もベンチ外とあって、スクランブル的な布陣を余儀なくされるけれども、今季のテーマであるプレッシングを遂行するには絶好のコンディション。ホームで16戦連続勝利なしという、J2記録を更新中の横浜が、開始直後から全開で来るのか、様子見なのかはわからないが、きっちりボールをつないで攻撃的に行ってほしい。そんな願いでいたのだけれど、その期待を裏にあっさりスカしてくれるのがウチというか（苦笑）。真ん中の二人、和正と冠秀に、ち～っともボールが収まらない。当然、ボールの捌きもないからピッチを広く使えない。もとより、大きなサイドチェンジに確実性が薄いので、やむをえず前に出しても、今度は優大や淳至に届かない。結果として、ペースは横浜が握り続け、失点場面を除いても、セツトプレーやカズの動き出しからのピンチが襲いかかる。運良く、本当に運良く一失点ですんだけれど、もう一点取られていたら...？横浜の記録は、かなりの確率でストップしていただろうな。どちらが次の点を取るか？が大きな焦点となった後半。先に動いたのは岐阜。優大に代えて野垣内を投入。リードされている中で、FWを下げてDF？と思われたが、この交代が当たる。染矢、正吾との3トップというが実質1トップの淳至の前には広大なスペースができるようになり、そこを淳至が縦横無尽に動き回ることによってボールのタメや、裏への抜け出しが見られ始めた。おまけに、キツイ日程のせい、絶好のナイトゲーム日和にもかかわらず、横浜の運動量がめっきり落ちる。2年前はJ1だったし、それ以外にも名前の知れた選手が、ウチとは比べものにならないくらい在籍している横浜だが、その分ベテランが多く、体力が保たなかったのだろうか？同点に追いついてからは、横浜の足は完全に止まり、洗一、大友とフレッシュな選手が期待通り動きまくったウチに対して、横浜の交代は効果的なものとはならなかった。後はトドメを刺すだけ、のような展開に思えたのだが...。淳至のシュートも、秋田のヘッドも枠を捉えることができず、タイムアップ寸前の冠秀のどフリー・ヘッドも、「入るだろ？フツウ」というくらいの際どさで枠の外へ。同時に鳴らされた終了の笛。厳しい日程のうえ、先制されて追いついたのは今季初。「負けなくてよかった」という前半の内容もあり、選手をねぎらう気持ちもないではないが、やはり、不調の横浜相手。勝ち点3がほしかった（録画を見直してみると、後半もそれなりにピンチがあり、ウチの一方的な展開だったわけでもない。現場での印象とは違いがあるもんだ）。もちろん、この時期の順位は気にする必要もないし、相手が上位でも下位でも関係ないのかもしれないが、今季の目標を10位以内と掲げている以上、チャンスは確実に決めておかなきゃいけないと思うのだけれど...。とはいえ、最低限の勝ち点1はゲットした。オマケに、次の試合が4日後に迫っている。きちんとしたリカバリー、意識の再統一をしてもらって、熊本戦に臨んでほしい。この試合は第1クールの締め括り。もちろん、ホーム長良川での勝利が見たいのは、みんな同じ。ぜひとも、初めてのホーム連勝を決めてもらって、みんなで万歳四唱をやりたいたいねっ！（ぐん、）

### 橋内竜真

#### 『U-20 ジャパンズエイト』選出！

我等がFC岐阜の右サイドバック橋内竜真が、JFA（日本サッカー協会）が主催するU-20ジャパンズエイト大会（5/24-26@御殿場）のメンバーに選出されました。この大会の趣旨は、JFAによると『ロンドン・オリンピック2012を目指すU-20日本代表（1989年1月1日生以降）のラージグループの形成と強化を目指し、日頃、所属クラブで出場機会が少ない選手や、より多くの実践経験を積ませたいとクラブが望む選手を対象に8人制の大会を実施。オリンピック出場選手の年齢制限がFIFA 100の決定で変更となる可能性はあるが、予選の有無に関わらず、代表強化のために、この年代を継続的に強化していく。』つまり、ロンドン五輪に出場可能な選手を集めて強化するということで、竜真もここに参加したからには、ロンドン五輪に行く可能性があるということです。竜真よ、精一杯アピールして成長して来い。（緑の小太鼓）

岐阜にとって初めての平日アウェイ戦だった横浜FC戦@ニッパツ三ツ沢。はっきりいって何人のサポが来るのか予想がつかない中で三ツ沢へ。ビジター自由席に行くと、いつもの長良川にいる面々が数人、関東在住の方が数人。少数精鋭でダンマクを張っていると、横浜FC側もあまり入りがよしくなく、ダンマクの数も何気にならない。また、横浜戦のあった20日に手術をした川島のためのダンマクも掲出。試合は前半は横浜ペース。前節の札幌戦からセンターラインの菊池、川島の二人が抜けての急造のDFライン（右から富成、秀人、秋田、菅）と言うこともあり守備も攻撃もまったくダメで、横浜のシュートが決まり先制される。後半は思い切ってFWの西川を下げて、野垣内を投入。片桐の1トップ、菅を中盤に戻し、DFラインを変更（右から野垣内、富成、秀人、秋田）。これが功を奏して、一気に岐阜に流れを引き寄せた。これで、染矢が同点ゴール。その後も横浜が足が止まったこともあり、岐阜の時間帯が続く。しかし、逆転のゴールが決まらない。最後の最後、CKからのソカンスのヘディングがポスト横に外れて終了のホイッスル。と同時に静まりかえるスタジアム。撤収準備をしながら話をしていると、岐阜のサポの多くが勝てたよなあ、こんなにひどい横浜相手に引き分けは勿体ないなあ、と。とはいっても、良かった点もあったわけ。アウェイでDFは焼き付け刃にもかかわらず1失点で済んだこと（後半は無失点）。富成、野垣内も複数のポジションをこなせる可能性を感じられた事。でも、なんとかとこなせるという感じなので先に先発ではいえないが。次の長良川での熊本戦まで時間がないが、しっかり疲れを取って、再度連携を確認してほしい。またこの試合で1クール終了。2クール目からは相手も研究してくるので、よりチーム、個人のいっそうのレベルアップを望みたい。

（緑の小太鼓）

平日のアウェイ開催は、社会人がそう簡単に行けるものではない。今回は「Cafe'FC岐阜」でP.V観戦する事に。当日はなんとか仕事を切り上げ、放送開始直前に未来会館に到着すると、見知った顔も初めて会う人たちも、思い思いに集まってきた。そんな中、画面の向こうには都合をつけて現地に赴いた仲間たちの姿が。その熱意と行動力に感謝と敬意をしつつ、キックオフを迎える。前半は、残念ながら正直言ってチームとしてあまり機能していなかったと思う。前節札幌戦で守りの要である川島・菊池2人をケガで欠き、緊急的なスタメン配置のためか、相手のプレスに圧倒されてボールが納まらない。また、連携不足なのかパスミスも目立ち、攻撃の形もなかなか作れない。防戦一方の中で隙を突かれて失点し、良いところがないまま前半終了。わずかにシュート1本という、自信を失っているかのようなチームの状態に集まっている人達もイライラを募らせる。普段いわずのコアゾーンにいる仲間たちは、前半はおとなしく座っていたものの、後半開始からは我慢できずに立ち上がって観戦。ちなみに僕も立ち上がった（苦笑）。ところが、ハーフタイムで選手交代とシステム変更をした結果、この采配が見事の中しチームは機能始める。いい形での攻撃が続いた後半10分、和正のパスを嶋田がゴール前に走り込んでクロス、これを染矢が身体を投げ出してゴール！観戦していた皆が立ち上がって喜び、ハイタッチ。後半の早い段階での同点に、Cafeの中も一気にヒートアップする。その後、何度もいい局面・惜しい場面がある度に、Cafeは歓声とうめき声と拍手に包まれる。まるでスタジアムにいるかのよう。抑えていたものの、つつい僕も叫んでしまう。しかし、逆転勝利を信じてみんなの気持ちが一いつになるものの、決めきれずに無念の試合終了。「勝てる試合だった」「後半よく修正して追いついた」と実に複雑な心境だった。さて、第1クール最終節となる熊本戦。あえて言わせて貰えば、残念ながら札幌戦・横浜FC戦と、苦しくとも前を向いて挑戦するプレーや、どんな場面でもゴールを狙うシュートへの姿勢が少なくなってきたと思う。若いチームであるが故に迷ってしまっているのだと思うが、逆に言えば若さがウリのチームなのだから、どんな失敗を怖れずにチャレンジしてほしい。僕は、そんな選手たちの後押しをする声援を送り続けたいと思う。そしてそれは、必ず良い結果をもたらしてくれるはずだ。第1クールの締め括る、ホーム連勝をかけた「JFLからのライバル」「昇格同期」との一戦。負けられない。（ささたく）

 Living in Woods

本庄工業株式会社

<http://www.honjo-woodream.com/>

# FC岐阜 2009 応援チャントピックアップ

## チームチャント

バモ岐阜バモ (Vago y A torrente) <http://jp.youtube.com/watch?v=HdzJSLV2kbY>

バモ岐阜バモ 友よさあ行こう ナダレる 暴れる 我等と  
熱い気持ち バモ岐阜バモ いざ 今戦おう

誇り胸に (Hay che bostero) <http://jp.youtube.com/watch?v=uUEPdWN4FEE>

俺達が 共にいる どんな時も お前と  
今ここで みせる岐阜 誇り胸に 闘え

情熱を胸に (オリジナル)

燃えたぎる情熱を その胸に持ち戦え  
恐れず前を向き ゴールを奪え

## タオル振りチャント

モリヤマ (CULTURE CLUB/Kama Chameleon) [【タオル振りチャント】](#)

エーフシーギーフゲットゴール ゲットゴール ゲットゴール

ネットを揺らせ 椰ひろみ 誘われてフラメンコ [【タオル振りチャント】](#)

ネットを揺らせユーラユーラ ネットを揺らせユーラユーラ

パパーラ (パパーラ/B-DASH) [【タオル振りチャント】](#)

パパーラパーパー パパーラパー  
パパーラパーパー パパーパー

タオマフチャントは  
この3つ!



## 個人チャント

08 徐冠秀 (アリヲ牧童 /Koyote 038~ ) <http://jp.youtube.com/watch?v=hOKR22C7KaA>

ララー ララララー  
ファイティン ファイティン SEO KWAN SOO!  
(GO!・GO!・GO!・GO!)

14 嶋田正吾 (ザブングル) <http://jp.youtube.com/watch?v=qDAPLQ B15s>

疾風のように アレ嶋田 アレ嶋田

20 染矢 一樹

ゆけーゆけーバモ染谷 ゆけーゆけーバモ染谷  
岐阜の韋駄天バモ染谷 オーレッ!!バモ染谷

選手入場時は  
『緑のアイテム』  
(タオマフ旗 etc) を掲げて  
会場を盛り上げよう!